一人ひとりがよりよく生きるために

～絵本「なかなおり」を通じて～

きずな教育小学校低学年の取り組み

長深田 洋平

江戸川区立篠崎第二小学校教諭

E-mail: tairyouako-@docomo.ne.jp

キーワード　：　思いやり/ 双方向コミュニケーション/自己修正／動機付け

パブリック・リレーションズを子供がわかりやすく学べる手段として、きずな教育の絵本を作成して幼児教育に導入したが、それを小学校低学年に拡大して、どのような成果が上がったかを検証する。児童が自己肯定感をもつと同時に、素直に謝る謙虚さを持つにはどのような努力をしたかを解説する。

１．はじめに

昨年の第１回研究発表では、きずな教育絵本「なかなおり」が、幼児教育に効果があるかを発表した。研究結果として、神奈川県内１０保育施設の年長、年中で取り組み大きな成果をあげることができた。

今年度は、小学校低学年での取り組みを研究することにした。研究学年は、東京都江戸川区篠崎第二小学校２年生を研究対象とした。

私は生活指導主任として素直にあやまる児童の育成を根底とし、

・友達同士で

・地域で

・家族で

学級担任として、児童の自己肯定感　自分を好きな子供を育てたいと考えている。

学習の動機づけとして　ARCS モデルを使って教科の枠をこえた学習をデザインした。

２.絵本「なかなおり」の中の「きずな教育」の３理論

「きずな絵本シリーズ」は、グローバル社会のさまざまな人たちとコミュニケーションすることで、絆を作り、目標達成するパブリック・リレーションズというスキルを子供たちにわかりやすく学べるように作られた。

きずな教育として３つのキーワードがある。その３つとは、

①倫理観（おもいやり）

② 双方向的なコミュニケーション（お互い話し合う）

③ 自己修正（間違っていたら直す）

絵本「なかなおり」には、この３つのキーワードが込められている。

新しい世界を作る子供たちである。この絵本が多くの子供たちに読まれ、次の時代を生きるために、心豊かに育ってほしいと願いを込められて作られた教材であるので、以下にあらすじを紹介する。

・あらすじ

おうちを作りたいクマくんが、森でひろった木でおうち作っていると、ビーバーくんに「その木は僕が切ったんだ。返して！」と言われた。でもクマくんは返さないので、ビーバーくんや森の仲間たちとケンカをしてしまう。トンカチで自分の手をたたいてしまい、クマくんは泣き出した。すると突然、リスおばあちゃんがあらわれて、クマくんに不思議な「なかなおりのうた」を教えた。

クマくんは、リスおばあちゃんに教えてもらった歌を勇気を出して歌い、不思議な力がわいてきて、

「ビーバー君、木をかってにとってごめんね。」となかなおりをする。

３．実践報告

学習の動機づけ　　ARCS モデル

教育現場でのデータ分析と研究結果をもとにジョン･M･ケラー（アメリカの教育工学者）が提唱した、学習意欲向上のための動機付けの ARCS モデルは以下の内容である。

（１）Attention　　注意・興味
（２）Relevance　　関連性
（３）Confidence　　自信
（４）Satisfaction　　満足感

次に教室でこの 4 項目を具体的に生徒に適用するが、以下のような会話になる。

（１）　Attention　興味「おもしろそうだな」
・学習者の興味を引き、目を開けさせること
・不思議さから好奇心を刺激すること
・マンネリを避けて注意を持続させること

◎注意の側面が満たされると、学びにすっと入っていける状態になる
例えば、教員と児童はこのようなコミュニケーションを行う。

先生：この絵本をつかって、劇団２年１組をつくるよ。
児童：すごーい！　何が始まるんだろう。

また、特別な教科道徳　（１時間）を設定し、主題名を「すなおな心で」、すなわち、育てたい内容項目は、A　正直・誠実　な児童の姿である。　具体的にいえば、いけないことをしてしまったときには素直にその非を認め、あやまることができるとともに、素直にのびのびと明るい心で生活できるか自分を見つめること訓練をする。その場合、生徒と教員の会話は以下のようである。

先生：素直にごめんなさいが言えなかった事って、ありませんか？
児童：あるある。友達にあやまれなかった。
先生：ビバーくんの木を返さないので、森のみんなにおこられたクマくんは、どんな気持ちだっただろう。
児童：ぼくが見つけたんだもん、なんでぼくをせめるんだ。もういやだ、みんなしらない。
児童：返さなきゃいけないのかもしれないけど、　ぼくは、きれいなおうちを作りたいんだ。
先生：リスおばあちゃんの歌を歌いながら、「ぼく木をかえしにいきます。」と言った時のクマくんの気持ちは？
児童：リスおばあちゃんアドバイスありがとう。本当は、あやまりたかったんだよね。
先生：森のみんなともなかなおりできましたね。クマくんは、どんなことを考えたかな？
児童：なかなおりをしたから、みんなのお家ができたんだ。
児童：やっぱり、みんな、なかよしはいいな。うれしいきぶん。
児童：これからも、みんなでなかよく、ふきげんにならないようにしよう。
先生：あなたが今までに、素直になってよかったなと思ったことを、クマくんに教えてあげよう。
児童：おとうさんとけんかして初めは、あやまれなかったけど、やっぱりあやまってみたら、なかなおりできたよ。」
児童：牛乳パック、そのままにしたとき、しょうじきにあやまったらゆるしてもらえたよ。

（２）　Relevance　関連性

「やりがいがありそうだな」
・努力した結果、何が得られるかを明らかにする
・努力した価値、意義を見いださせる
・授業の内容が他人事ではなく、自分に関係が深いことを知らせる
・何のために努力するのかが納得できるとやりがいが出てくる

先生：おもいやり・お互い話し合う・間違っていたら直す。みんなが、道徳で学んだことを１年生に！！近くの幼稚園、保育園児に、おとうさんおかあさんに！劇団を作って伝えるよ！！
児童：「みせたい、みせたい！！すごーい！！」

（３）Confidence　自信「やればできそうだな」

・何ができればよいのかを明確にし、成功への期待感を持たせておくこと

・失敗ばかりしていては、自分はできないと思いこんでしまう。成功の体験を重ねることが重要。
教師の指示だけではなく、自分で努力した結果、成果が出たと思わせると自信につながる
・その子が
できるレベル
できている事
できている時に行って、成功体験を積ませる。
学級活動　話し合い活動　（１時間）を行い、
様々な役割が出た。
登場人物
ダンス　音楽　鍵盤・打楽器　効果音

先生：まず、どんな準備をすればいいかな？
児童：役割を決めないとじゃない！？
児童：学級会で役割分担しようよ。
先生：自分たちでできることを考えてみようよ

（３）　Satisfaction　満足感「やってよかった」

・努力を無駄に終わらせないこと
・自分ががんばったことを認めてもらえる場
・教師からの賞賛、励まし、友達から認めてもらえることが、学習の満足感につながる
・この学習をやってよかったなと思えるような学習のまとめの活動は必要である。

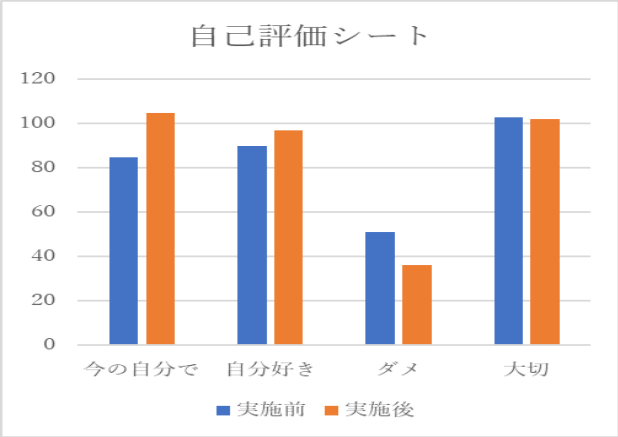
これは、生活科（４時間）で、内容は、練習３時間・発表１時間を行った。
授業後の児童の感想は以下である。
・１年生がよろこんでくれてよかった。
・タンバリン、ダンスも上手にできた。
・他の学年や、ちっさい子にもみせたいな。
・次は、クマくんにちょうせんしよう。

１年生の感想としては、
・たのしかった。ありがとう。
・きもちがこもってるとおもった。
・なかなおりしたところがよかった。
・けんばんハーモニカもダンスもじょうずだった。
・とてもなかよくなって。おうちもみんなでつくって、・でっかいおうちができてよかった。

１．　考察
アンケート１「自己評価シート」より

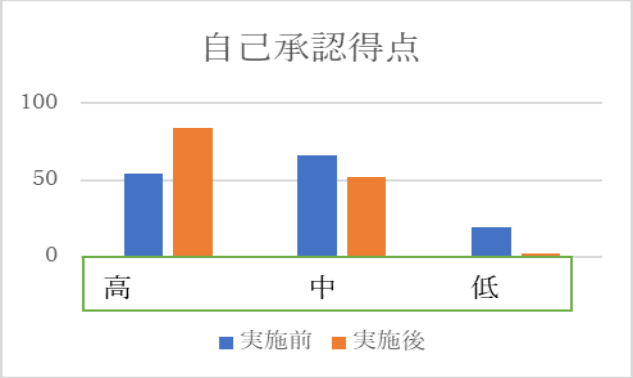
・あなたは いまのじぶんで よいとおもいますか
・あなたは じぶんのことが すきですか
・あなたは じぶんがダメなにんげんだとおもうことがありますか
・あなたは じぶんのことを たいせつにおもえますか

（東京都教職員研修センター）



学習を通して、「できた」達成感、「こうしよう」自己決定という実感をもったり、先生や友達に「褒めてもらった」、「認めてもらった」等、他者と関わりながら学ぶことのよさを感じたりできるよう、指導方法工夫すれば児童の自己肯定感は高まるという結果となった。

アンケート２「Q-U」自己承認得点」より



「みんなに認められている」という、気持ちが満たされ、前向きな気持ちが高まった。

５．　結論
素直で明るい気持ちでいることの大切さに気付き、素直で明るい気持ちでいることについて多面的・多角的に考えることができていることが、授業中の姿や発言、ワークシートの記述からわかった。
児童の自己肯定感を高めるためには、単一の教科等のみならず、複数の教科等を関連付けて取り組むこ

とが効果的である。

参考文献

１） 井之上喬.パブリック・リレーションズ第２版 戦略広報を実現するリレーションシップマネージメント.日本評論社.2015
２） 作力ピリナ 監修井之上喬 長深田悟.なかなおり.朝日学生新聞社.2023
３）学習意欲をデザインする: ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン 2010/7/1
ジョン・M. ケラー（著), John M. Keller（著, 原名), 鈴木 克明（監修, 翻訳）